

病害虫講座 44 ウメの病害虫-I (大勢でお邪魔します!)

木村 裕

ウメの葉や枝、幹にセミのように口ばしを刺し込んで汁を吸っている害虫を紹介します。

【ムギワラギクオマルアブラムシ】

長ったらしい名前でご覧ににくいですが、しかし、この虫の被害症状に関してはウメを栽培している人なら、ああ～あの被害かとすぐに頭に思い浮かぶことでしょう。

春4月、新しい枝が伸び出す頃、開く葉が次から次へとみんな縮れてクシャクシャになる症状ですが、縮れた葉を開いても虫は見つかりません。

この虫は食道楽? で硬くなった葉は見向きもせず、もっぱら先端の開き始めたばかりの葉の裏に集まって汁を吸っています。しかもウメに滞在するのは一時で5月頃には姿を消します。

夏場は付近の草花や野草で静かに暮らし、秋涼しくなってからウメに戻ってきて越冬芽の近くに卵を産みます。これが翌春の発生源になります。

物知りの方がこれは縮葉病だとよく言いますが、それは間違いです。縮葉病も葉は縮れますが、症状はまったく異なっており、通常発生することは少ないです。



【オカボノアカアブラムシ】

このアブラムシもよく発生します。ムギワラギクオマルアブラムシに比べ、発生時期はやや遅く5月頃になります。

長く伸びた新しい枝の周りに白っぽい粉に

包まれた少し赤味のある虫がぎっしりと並んで汁を吸います。そのため、虫のいる枝やその下にある葉にはねばねばして油滴のような物(虫の排せつ物)が付着します。

この虫の発生時期も一時で、6月にはオカボノ野菜類の根っこに引っ越しますが、私はそこでの姿をまだ見たことはありません。

【タマカタカイガラムシ】



枝や幹に虫コブができたように赤褐色の球がたくさん付着します。これはタマカタカイガラムシのメス成虫で、お尻から粘液(排せつ物)をいっぱい放出するので、周りの枝や葉はいつも濡れたようになっています。この球を枝から引き離すと、ポロポロと粉のような物がこぼれ落ちることがありますが、これは卵で1個の球に数百個ほど詰まっています。

また、この球の周りに灰色でヤマアラシのような突起のある気持ちの悪い虫が見つかること



がありますが、これはテントウムシの幼虫です。なのでお茶でも差し上げておもてなししましょう。

詳細については病害虫講座173号(2016年6月号)を参照してください。